

栃木県立高校で「明るい未来へTRY!」を活用し 「家庭基礎」・「生活産業基礎」で特別授業を実施しました!

～保険の基本と自転車事故に備える損害保険について学ぶ～

日本損害保険協会 関東支部 栃木損保会(会長:小野 智康・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 理事 栃木支店長)では、10月24日に栃木県立鹿沼南高等学校で、出村 麻美先生(普通科2年生30名を担当)と、大森 由佳先生(ライフデザイン科1年生35名を担当)が当協会作成の高校生向け副教材「明るい未来へTRY!」を活用した家庭科の特別授業(授業時間:50分)を実施しました。

4限目(12時～12時50分)の「家庭基礎」の授業(担当:出村先生)では、前半は、動画「保険の役割」を観た後、人生を変えるかもしれない様々なリスク、交通事故・自転車事故や火災保険の発生確率と発生件数および自動車事故へのリスクの備え方(回避・縮小・保有・移転)について説明がありました。

後半は、動画「社会保険と民間保険」を観た後、社会保険・民間保険の種類と損害保険の種類について説明があり、最後に損保協会からも、栃木県の自転車事故の現状、栃木県自転車条例の概要と自転車事故に備える損害保険について補足説明しました。

5限目(13時30分～14時20分)の「生活産業基礎」の授業(担当:大森先生)では、前半は、動画「保険のキホン」を観た後、保険と貯蓄の特徴、社会保険と民間保険の違い、民間保険の種類(生命保険、損害保険、第三分野の保険)、損害保険の種類について説明があり、損保協会からは、企業保険(船舶保険、貨物保険、火災保険の工場・倉庫物件)の概要および損害保険の起源について説明しました。

後半は、動画「週末はサイクリングを楽しみたい!」を観た後、自転車事故の高額賠償事例、自転車で行われる3つの責任(刑事上・民事上・道義上)、自転車事故に備える保険(個人賠償責任保険・傷害保険)の説明があり、最後に損保協会から、「例えば住宅の保険の加入に当たっては、自分の住んでいる地域が災害などの被害に遭いやすいかハザードマップで確認してみることも有効だ。」と説明しました。

生徒の授業実施後の感想は、以下のとおりです(下表参照)。

本授業を通じて、身の回りには想定外のリスクが潜んでおり、社会保険ではサポートできないリスクに備えて損害保険があることを生徒に認識いただき、損害保険教育を着実に推進することができました。

当支部では、授業実践、講師派遣等を通じて、今後も損害保険リテラシーの向上に努めてまいります。



生徒に説明する出村先生



生徒に問いかける大森先生



授業の様子

〈生徒の授業後の感想〉（抜粋）

■出村先生授業（家庭基礎）

- ・今まで保険に興味がなかったが、今回の授業で興味を持つことができたので、成人になってどの保険に入ればいいのか今から考えていこうと思う。
- ・今までは保険に入ることの大切さは知らなかったが、人生を生きていくうえで保険に入ることはとても大切であるということに気付いた。
- ・いろいろな保険があって自分に合った保険を選んでいくことが大切だと思った。
- ・保険について今まではそれほど重要に捉えていなかったが、これからはより保険に対する理解を深めて対策していこうと思った。

■大森先生先生授業（生活産業基礎）

- ・今までは保険に入ってもお金がもったいないと思っていたが、いざとなったときに自分を守ってくれるのは保険なのだを知ることができた。
- ・授業を通じてそれぞれの役割とリスクを軽減する方法を学ぶことができた。自分の生活を振り返りながら、事故や病気に気をつけようと思う。より詳しく知ることができたので、一人暮らしをすることなど、知識が生かされるようにしていきたい。
- ・保険の始まりは海上だと知って驚いた。普段の生活にはリスクが多く、いつ自分がリスクを背負ってもおかしくないの、保険に入る年齢になったら自分で見極めて保険に入りたいと思う。
- ・私は今16歳で2年後に成人して責任を持つことになるので、先を見据えて1年生から専門家からも学ぶことができてありがたかった。
- ・保険のことは考える機会が少なく知らないことばかりだったので、今回の授業でいろいろ理解することができた。高校生だと自転車での事故は起こりうる可能性が高く、今後のために学んだことを忘れずに、少しでも将来のために役立てられるようにしたい。
- ・自転車事故でヘルメットを着用しているかないかで致死率が大きく違ってくる。自分も自転車に乗っているため、「自転車安全利用五則」を守って事故に遭わないようにしようと思う。保険に加入していないと思っていたが、家族みんなが補償の対象となる個人賠償責任保険があることを知って少し安心した。
- ・自転車事故でヘルメットを着用していないと致死率が高くなると聞いて、自分もヘルメットを着用していたことにより、歯が1本折れただけで済んだことを思い出し、改めてヘルメットの大切さを感じる事ができた。小学生が高齢者にぶつかり1億円近いお金を払わなくてはならないと聞いて、未成年といえども責任を免れることはできないことを知ることができた。